

ねんりんピックおいでませ! 山口2015 10月17日(土)~20日(火)

宮城県代表、いざ出陣

選手にインタビュー



サッカー 熱いプレーでゴールを狙う



前列右から2人目が林さん

仙台市を除く石巻市、多賀城市、松島町など、宮城県内各地に住むメンバーで構成されるサッカーチーム「宮城フェニックス」から選抜された、60〜71歳の17人が参加する。モットーは「けがなく楽しく」。週1回程度集まり、練習に汗を流している。「チームワークの良さが自慢」と代表の林喜代志さん(65)は話す。本番に向け、8月から

は仙台市の同世代のチームとの合同練習会を行っている。ゲームでは、スピードを上げて一気にゴール前に切り込んだり、相手の速攻に瞬時に反応しゴール前にダッシュで戻ったりと年齢を感じさせないプレーが次々と飛び出す。「試合が始まると



ディフェンスをかわし、ゴール前に切り込む

つい熱くなり、プレーが激しくなることもある」と林さんは笑う。大会では一部総当たりで3試合行う予定。「勝敗に関係なく楽しみたい」と林さんは話す。

高齢者を中心とした健康と福祉の祭典「ねんりんピック」(全国健康福祉祭)はことし、「おいでませ! 元気な笑顔 ゆめ舞台」をテーマに山口県で開催される。宮城県からは17種目に119人の選手が出場。全国から集まった選手と交流しながら、大会に挑む。日々、練習を重ねる選手に意気込みを聞いた。(4面に続く)



前列左から後藤ふみ子さん(68)、猪股芳子さん(67)、鹿野さん、島山幾子さん(65)。後列左から尾崎實さん(65)、佐藤さん、大場一行さん(64)、小野寺学さん(70)



卓球 万全の態勢で勝負挑む

「栗原・気仙沼チーム」は男女混合の8人が出場。高校時代から卓球を続けている選手もいて、

それぞれ技を磨いてきた強者ぞろいだ。ねんりんピックの卓球競技では、通常の硬式ボールより一回り大きいラージボールを使う。球の回転数や変化球が少ないため、ラリーが通常より長く続くのが特徴だ。

選手の鹿野琴子さん(67)は、ラージボール卓球の魅力に夢中になっている一人。「以前は日本舞踊の指導者をしていた。ところが、趣味で楽しんでいた卓球にのめり込み、指導者を辞めて卓球一本に絞った」と話す。監督の佐藤健児さん(71)は「作戦は特に立て

ていないが、それぞれレシーブやカットなど自分の強みを生かして試合に臨めば。当日は、相手チームとの相性を見ながら、特に調子が良く、モチベーションが上がっている選手でチームを編成する。万全の態勢で挑み、決勝トーナメント出場を目指したい」と抱負を語る。



鋭いレシーブやカットを繰り返す